



1 部会名

児童生徒指導部会

2 研究テーマ

未然防止も含めた不登校児童生徒への対応

3 研究の取組

(1) 研究内容

不登校児童生徒の数は増加傾向にあり、その要因や背景は、さまざまである。そのため、学級担任等が一人で抱え込まず、多くの教職員で考え、対応することが大切であるとする。また、校内における支援だけでなく校外（教育支援センター等）の居場所を活用した支援や、児童生徒の心に寄り添った支援（SCの活用等）、家庭環境へのアプローチからの支援（SSWの活用等）も含め、研究を進めていく。

・1年目は不登校対応における支援上の困り感の調査。市教育支援センターにて、子どもとの関わり方を学ぶ。

・2年目は校内での支援体制の事例。効果的な手立てを収集し、検討する。

また、未然防止として、児童理解を深める手立て（健康観察、友達関係の把握、教育相談など）、保護者との協力、支援体制の構築（学年、保健室）についても、研究を行う。

研究内容①：校内における支援と連携について（校内体制の充実、SC、SSW）

研究内容②：校外における支援と連携について（市教育支援センター、民間等が運営する居場所）

(2) 研究計画

月 日	研修内容	月 日	研修内容
5月9日	研究テーマ・内容の協議、計画作成	11月21日	研究テーマ・内容の協議 集めた困り感を整理
6月30日	研究テーマ・内容の協議、計画作成	2月6日	1年次のまとめ
10月9日	研究テーマ・内容の協議 不登校対応の困り感を調べるための質問事項を決める 教育支援センター「はばたき」の訪問	2月20日	1年次報告提出

4 研究の成果と課題

【成果】

- ・情報交換・共有が深化  
不登校対応に関する悩みを出し合い、解決に向けた視点が増えた。校種や学校規模を超えて、実践や考え方を共有できた。
- ・教育支援センター「はばたき」からの学び  
施設の目的や機能を把握できた。保護者対応の好事例を学ぶ機会となった。外部機関との連携の重要性が再確認された。相談員の基本的姿勢や心得を学べた。
- ・困り事の整理による新たな視点  
教師・保護者・児童生徒それぞれが「困り感」を抱えていることを再認識できた。児童生徒の視点に立って対応を考える方向へ研究の軸が定まった。

【課題】

- ・未然防止の観点から、「魅力ある学校づくり」をどう進めるか。
- ・不登校児童生徒に対して、社会とつながる学び・体験の機会をどう広げるか。
- ・チームとして、支援体制が整っているよい実践例をどう周知していくか。

5 さらに研究していきたいこと・次年度の構想

- ・未然防止のアンケート調査（児童向け：学校生活満足度、友人関係、安心感、ストレス）
- ・初期対応の実践事例の収集（改善した例、改善しなかった例）
- ・事後対応の実践事例の収集（改善した例、改善しなかった例）